

**資料 3**

第 5 回河原地域振興会議資料	
平成 30 年 1 月 24 日 (水)	
担当課	地域振興局地域振興課

**新市域振興ビジョン改訂の考え方について**

**1. 概要**

「新市域振興ビジョン」は、新市域の 10 年先を見据えた地域の特性を生かしたまちづくりの方向性を示すものとして平成 26 年 8 月に策定され、重点的に取り組む必要性のある項目については「推進計画」を作成し、計画的に事業を推進しているところです。

推進期間の短期(26～29年度)が経過するにあたり、平成 28 年 4 月に策定された「第 10 次鳥取市総合計画」との整合性を図ることにより、当ビジョンの改訂を行うこととします。

**2. 見直し作業の内容**

(1) ①ビジョン第 2 編「5. 地域別の現状と課題、目指す将来像」(P 15～31)、②参考資料「1. 地域の歴史、特性、資源」(P 81～88)、③その他必要な箇所においての修正。

(2) 推進計画の見直しについては、平成 30 年 2 月頃を予定しています。

(中・長期事業を見据えての変更を予定)

**3. 今後のスケジュール**

	平成 29 年度					平成 30 年度				
	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月
ビジョン の改訂	依頼	作業期間	地域振興 会議協議	報告	PT 協議	地域振興 会議報告	PT 協議	推進本部 会開催	公表	地域振興会議報告
推進計画 の見直し	地域振興会議での報告(年 2 回程度)			依頼	報告	地域振興会議報告	公表			

### ① 協働による防犯対策の推進

子どもたちの安全な暮らしを脅かす事象の発生をきっかけに、平成 19 年度より、官民協働で「自分たちのまちは自分たちで守る」をスローガンに掲げ、「青色防犯パトロール」を開始した。町民市民の防犯意識の向上と犯罪・不審者の発生を抑止し、児童・生徒はもとより、地域住民が安心して暮らせるよう、これらの取組を継続することが必要です。

### ② 農業の振興と有害鳥獣対策の推進

農業の後継者不足に伴う耕作放棄地の増大などに対応するため、専業農家はもとより農産物加工グループ、兼業農家、高齢者農家などの支援を行い、農地の荒廃防止と年金+αによる、生きがいつくり農業が必要です。

また、有害鳥獣による農林業被害が増え、従事者の農林業を継続する意欲が低下しています。そのため、狩猟者育成、鳥獣害防止柵・捕獲奨励金制度等を活用するとともに、獣肉を高級食材のジビエ\*として有効活用を図る、「いなばのジビエ連絡協議会」と連携して、そのブランド化や販路開拓を進めることが重要です。

### ③ 企業誘致の推進と移住定住の促進（若者の流入・定住促進）

本市では、大規模事業所の事業再編等により、多くの離職者が発生しています。民間・公共の遊休施設を活用した企業誘致と河原インター山手工業団地・鳥取南インター布袋工業団地の着実な事業推進を図り、若者の就業機会の増加など、地域内雇用の創出を図ります。

また、民間による住宅団地・分譲地の整備を促し、居住環境を充実するとともに、グリーンツーリズム\*などの体験交流の拡充を図りやいなば西郷むらづくり協議会が構想している「いなば西郷工芸の郷」を支援するなど、移住定住を推進することが必要です。

### ④ 子育て・教育環境の充実

子育て環境づくりとして、地域の中で支え見守っていける環境づくりと支援体制の充実を図るため、河原町中央公民館コミュニティーセンター、河原第一小学校、西郷小学校の耐震改修などの整備を計画的に行い、施設を長期に安心して利用できるようにすることが必要です。

また、地域住民と小・中学校 PTA 及び本町の児童・生徒が共同して開催する「河原町未来を語る会」の継続実施を支援し、本町の未来についてそれぞれの立場で意見を出し合い、児童・生徒の健全育成を図ることが必要です。

### ⑤ 観光振興に伴う交流人口の増

本町の街並みを展望できるお城山展望台「河原城」、古くは、湯治場として有名な「湯谷温泉」、自然豊かで四季を通じて彩どりが楽しめる「三滝溪」、シオパーク\*エリアで、パラグライダー等の名所「霊石山」、大国主命が会いに来た八上姫を祀る「売沼(めぬま)神社」など、本町の豊かな観光資源を生かし、観光産業の活性化につなげることが求められています。このため、年間約 150 万人が利用する「道の駅清流茶屋かわはら」を情報発信の拠点として、観光振興と交流人口の増加に向けて戦略的に取り組むことが必要です。

## ●めざす将来像

### 誇りと夢・ぬくもりのある町をめざして 【河原町】

本町は、古代因幡における国づくり発祥の地ともいわれる「八上郡」の中心地であり、このような歴史を背景に本市南部の中にあっても、気象、地形等の恵まれた自然条件と河川・道路の主要な結接点をなす立地条件を基に、地域産業や農業で主要な役割を果たしてきました。

鳥取自動車道全線開通、また、河原インター山手工業団地・鳥取南インター布袋工業団地の整備着手など「本市南部の表玄関」としての新たな役割が求められています。

そこで、今後10年間（平成26年度～平成35年度）の本町の新たな発展について、3つの理念を掲げ推進します。

#### 一. 人や地域に「誇り」のもてるまちづくり

豊かな自然と歴史、文化を大切にするとともに継承・活用し、郷土を誇れるまちづくりを進めます。

#### 一. 未来に広がる「夢」のあるまちづくり

子どもたちが学校、家庭、地域の中でのびのび育ち、老若男女が元気に過ごせ、夢の実現や可能性に挑戦できる環境整備をし、「住んでよかった」、「生きがいがある」夢のあるまちづくりを推進します。

#### 一. みんなが支え合う「ぬくもり」のあるまちづくり

誰もが生涯健康に過ごせるよう、病気予防指導や、医療、福祉の充実を図ります。また、安全で安心な暮らしができるよう、住民、関係団体、行政が連携を図ることにより、みんなが支え合い、一人ひとりが大切にされるぬくもりのあるまちづくりを進めます。

## ◆ 河原町

### ●歴史

本町は、古事記に日本最古の恋物語「八上姫神話」が記されていることから分かります。古代より因幡国八上郡の中心として栄えた地域で、美しい山野に囲まれた、豊かな緑と清らかな千代川の流れに沿って平野が広がり、産業・経済・文化等幅広く発展してきました。

昭和30年3月、河原町・国英村・八上村・散岐村・西郷村の5つの町村が合併し新たな「河原町」が誕生し、その49年後の平成16年11月に1市8町村の広域合併で鳥取市河原町となりました。

町名は、千代川と八東川の合流点の広い河原の上にてきた町であり、中洲であり、磧（かわら）であったことからつけられたと記されています。

### ●特性

①鳥取県東部圏域の中央に位置し、河川・道路の主要な結束点でもあり、特に河原インター付近「道の駅清流茶屋かわはら」と鳥取南インターは「本市南部の表玄関」として、今後、河原インター山手工業団地、新可燃物処理場、鳥取南インター布袋工業団地などの整備により、本市が発展する上での要所となっています。

②農林水産業は、稲作、果樹栽培が中心ですが、その他に畜産・原木椎茸栽培（乾燥椎茸含む）も盛んです。千代川では、鮎の稚魚の放流を行い、釣り人などの誘客につながっています。

③文化の町「かわはら」は、文化人として、物理学者・教育者「村岡範為馳」、医師で漂泊の詩人「伊良子清白」、郷土の歌人「田中寒樓」など多くを輩出している他、焼き物の里として「牛ノ戸焼」、「因州・中井窯」、「やなせ窯」の窯元があります。

本町の風土に刻まれた歴史の刻印も多くあり、弓河内と長瀬の大シダレザクラ、落河内の大キリシマ・カツラの木などの銘木も県指定文化財となっています。前田・郷原遺跡、稲常古墳群等、また木下家住宅、売沼神社、観音寺、大義寺等と戦国時代の雄将の「源範頼」、「武田高信」の墓等もあります。

④河原の旧道は、上方往来として鳥取から河原・智頭を通り、志戸坂峠を越えて山陽道・大阪・京都へ至る鳥取藩の参勤交代にも利用された重要な街道で、当時の河原村は旅人の休憩所である茶屋があったことから「上の茶屋」と呼ばれてにぎわいました。

### ●資源

区分	主なもの
特産品	梨、柿、しいたけ、鮎料理、焼き物（牛ノ戸焼、因州・中井窯、やなせ窯）いなば和牛
観光	道の駅清流茶屋かわはら、鮎釣り大会、お城山展望台「河原城」、三滝溪、湯谷温泉、霊石山
イベント	あゆ祭、河原城イベント（春の大茶会・中秋の月見会・元旦初日の出）、霊石山フライトフェスティバル、河原歴史民俗資料館文化伝承行事（七草がゆと鳥追い、釜やきほか）、西郷まるごと博物館〜ぎゃらりーあっちこっち西郷工芸祭り